

前期

子どもの「自走」を支える、「伴走」する教師

令和8年度 学校評価分析

湧別町立芭露学園

PTA 戸数31のうち、回答数15でした。ご協力ありがとうございました。

**1 豊かな心と
健やかな体の育成**

あいさつ、人間関係・いじめ防止、相談体制、異年齢交流、自己決定、
道徳教育、体力向上、環境美化

**2 確かな学力の定着と
授業改善**

授業への主体的参加、課題設定・見通し、話し合い・学び合い、
学習リーダー、タブレット活用、家庭学習

**3 信頼される学校づくりと
地域連携**

学校の楽しさ、保護者への情報発信、地域性を生かした教育活動

1 豊かな心と健やかな体の育成

02 すすんで挨拶

03 友人関係・いじめのない
学校づくり

04 相談しやすい環境づくり

05 異学年交流

06 自己選択・自己決定

07 道徳教育

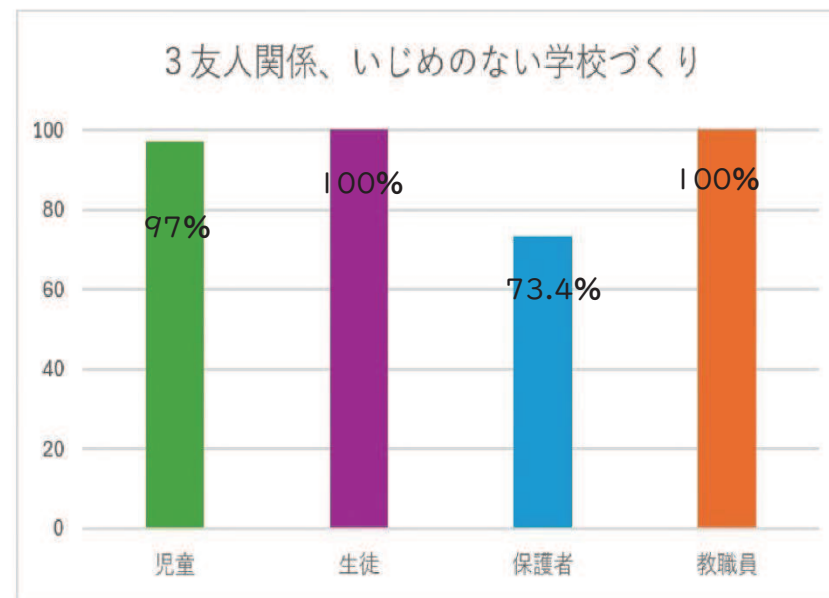
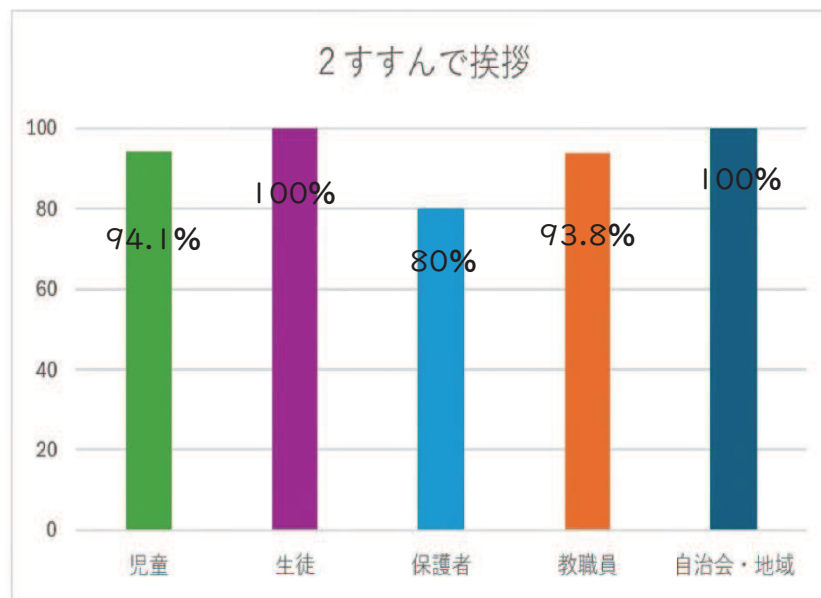
08 体力向上

17 整理整頓・環境整備



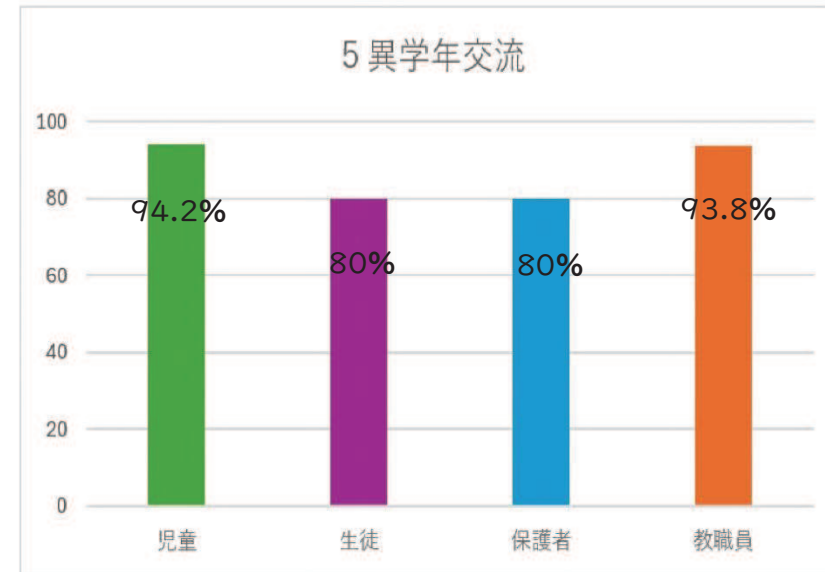
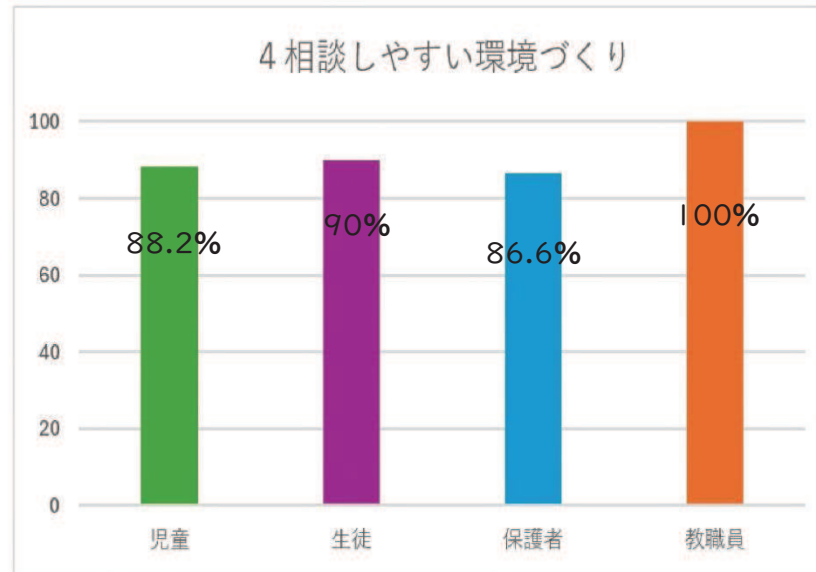
思いやりを持ち、
安心して自分らしく成長できる
環境づくり

1 豊かな心と健やかな体の育成



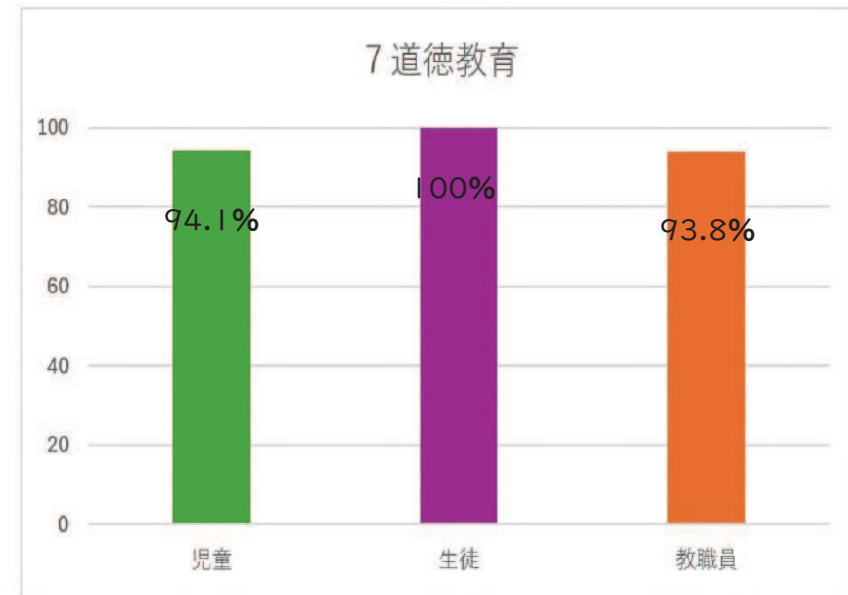
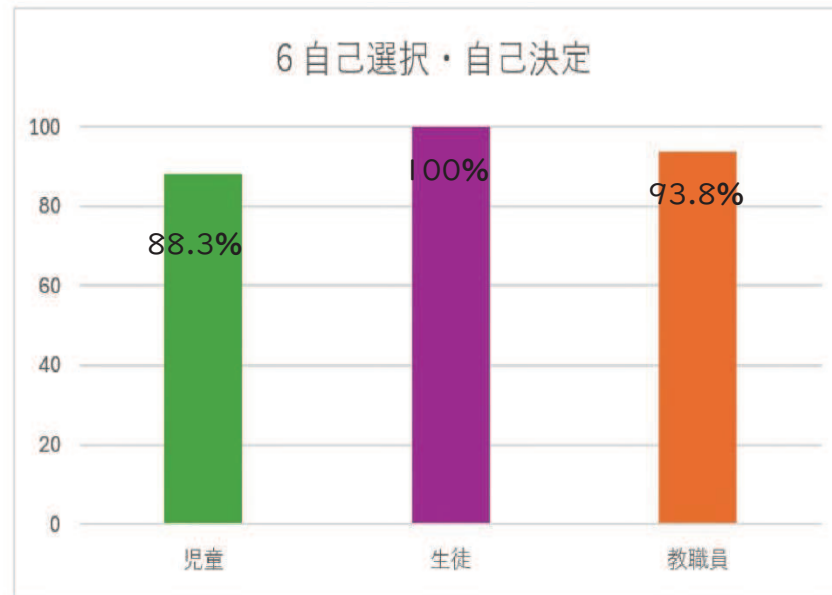
- 「すすんで挨拶ができる」では、生徒・地域（100%）、児童（94.1%）、教職員（93.8%）と高い水準です。一方、保護者の肯定的評価が80%に留まっており、家庭生活や登下校時における自主的な挨拶の定着に改善の余地があります。
- 「友人関係、いじめのない学校づくり」では、生徒・教職員（100%）、児童（97%）と学校現場では強い成果を実感しています。一方、保護者の評価が73.4%と低めであり、学校内での取り組みや人間関係の様子が保護者へ十分に伝わっていない可能性があります。

1 豊かな心と健やかな体の育成



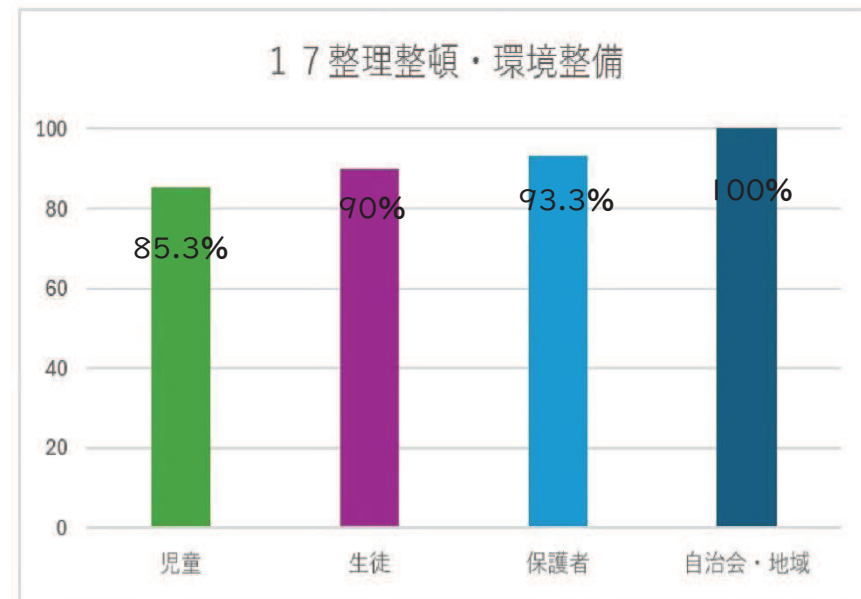
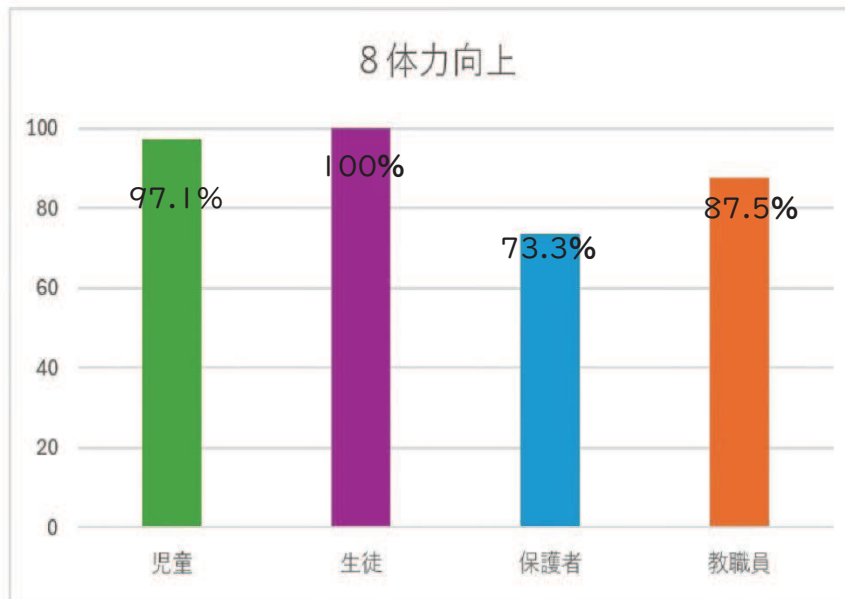
- 「相談しやすい体制づくり」では、教職員の評価が100%であり、支援体制が整っています。児童（88.2%）、生徒（90%）、保護者（86.6%）と全体的に若干の下がり幅があり、児童生徒が心理的に相談しやすい工夫が必要です。
- 「異学年交流」では、児童（94.2%）、教職員（93.8%）で高い評価を得ています。生徒（80%）、保護者（80%）の評価がやや低く、後期課程も含めた交流機会の充実が望まれます。

1 豊かな心と健やかな体の育成



- 「自己選択・自己決定」では、生徒（100%）、教職員（93.8%）と自己決定場面の構築において高い評価を得ています。一方児童（88.3%）の評価がやや控えめであり、前期課程段階からの選択機会の提供が期待されます。
- 「道德教育」では、生徒（100%）、児童・教職員（94.1%/93.8%）ともに高水準で安定しています。

1 豊かな心と健やかな体の育成



- 「体力向上」では、生徒（100%）、児童（97.1%）と、当事者である子供たちの実感が極めて高いです。保護者の評価が73.3%と低く、家庭での運動習慣や学校での体力づくりの成果発信に課題があります。
- 「整理整頓・環境整備」では、教職員（100%）、保護者（93.3%）、生徒（90%）と美化環境への認識が高く維持されています。児童（85.3%）の意識向上のため、日常的な整理整頓習慣の指導が必要です。

2 確かな学力の定着と授業改善

09 学びの深まり

10 授業の課題設定

11 主体的な学び

12 学び合いのある学び

13 学習リーダーの役割
(前期課程)

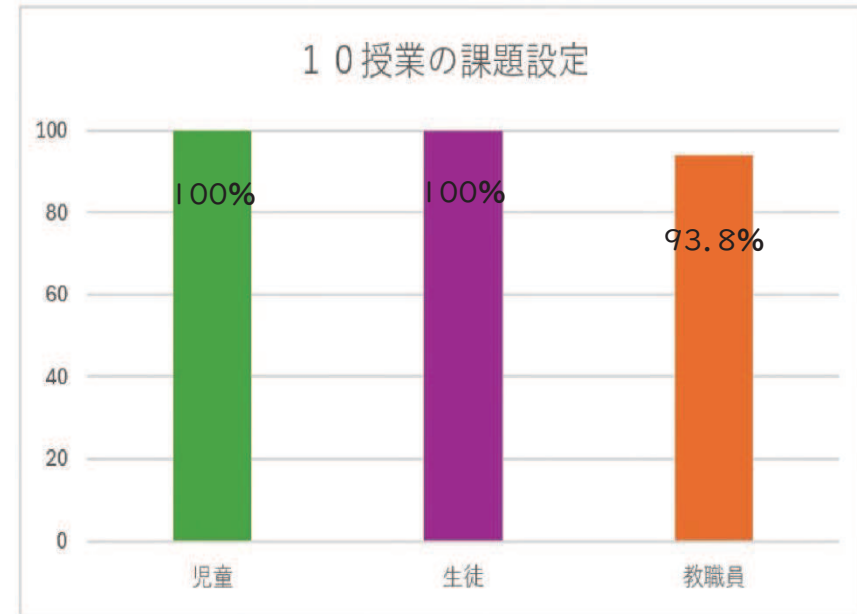
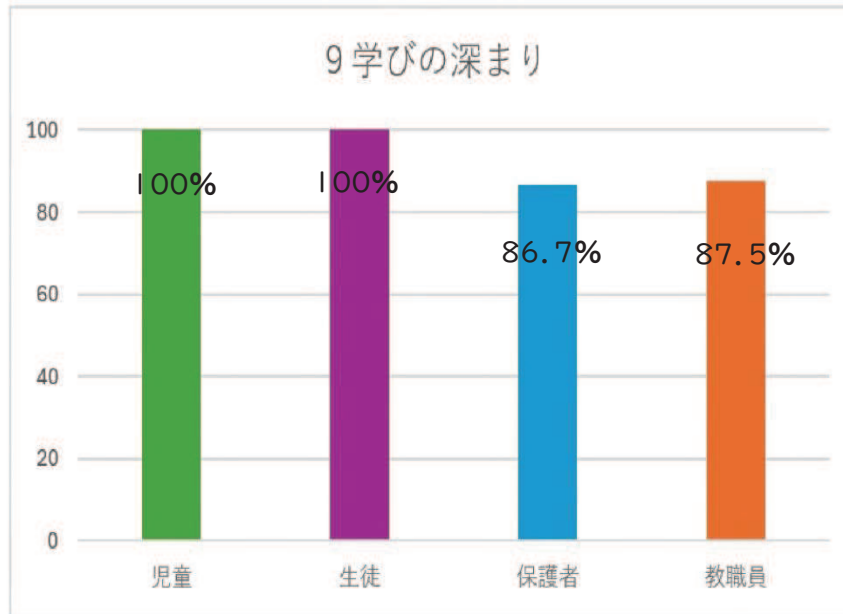
14 タブレットの利活用

15 宿題や家庭学習

「わかる・やってみたい」を引き出し、
ともに深める学びの充実

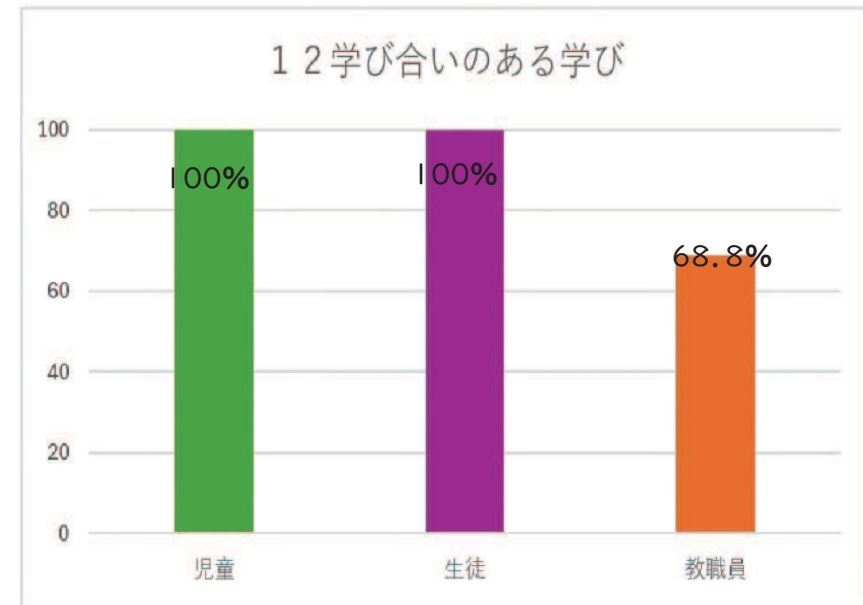
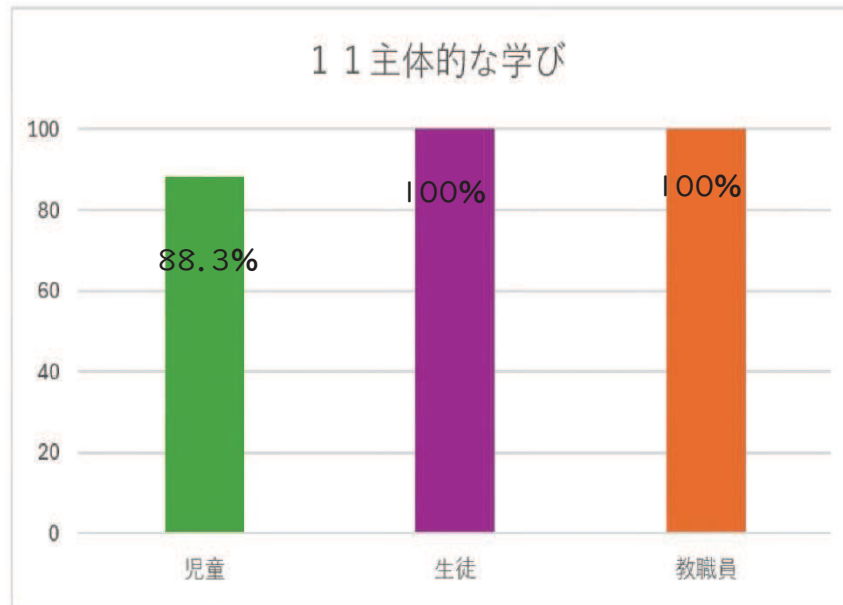


2 確かな学力の定着と授業改善



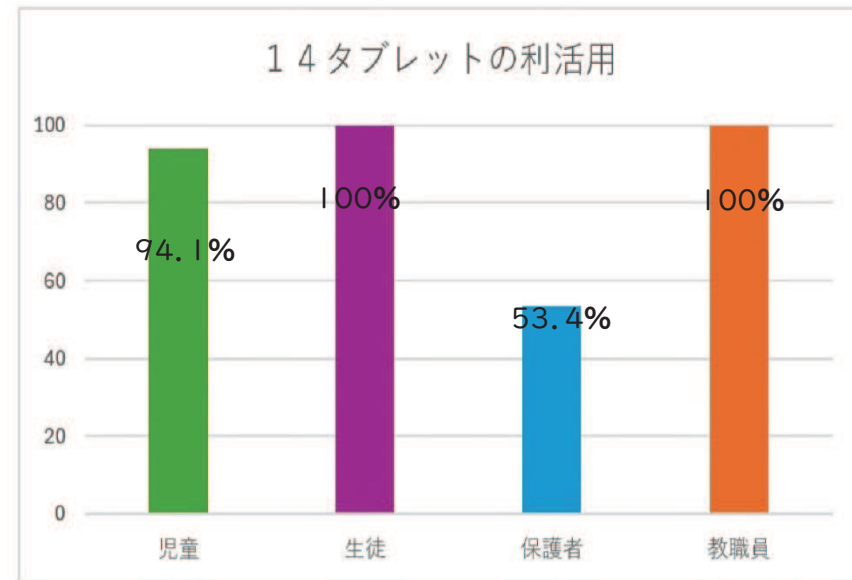
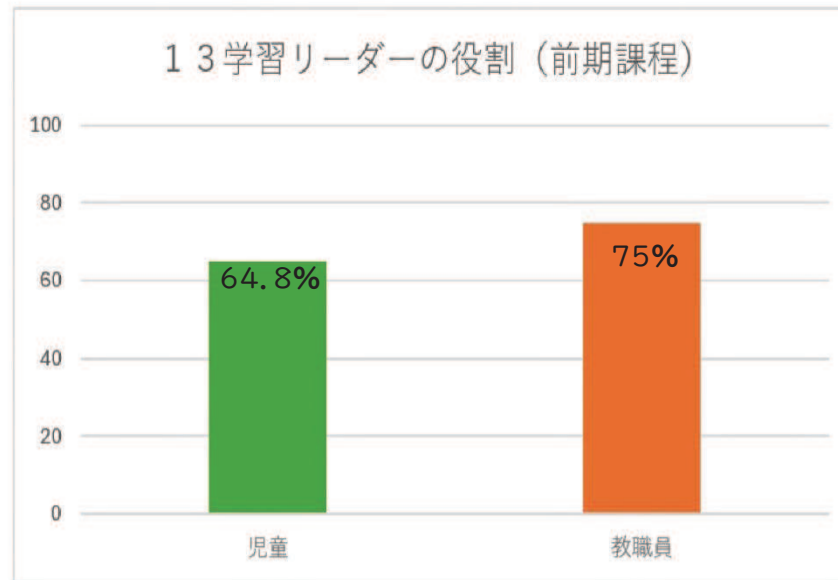
- 「学びの深まり」では、児童・生徒ともに100%と、学習効果を強く実感しています。保護者（86.7%）、教職員（87.5%）の評価が児童生徒を下回っており、客観的な学力定着の分析と共有が必要です。
- 「授業の課題設定」では、児童・生徒ともに100%と、主体的な課題把握ができています。

2 確かな学力の定着と授業改善



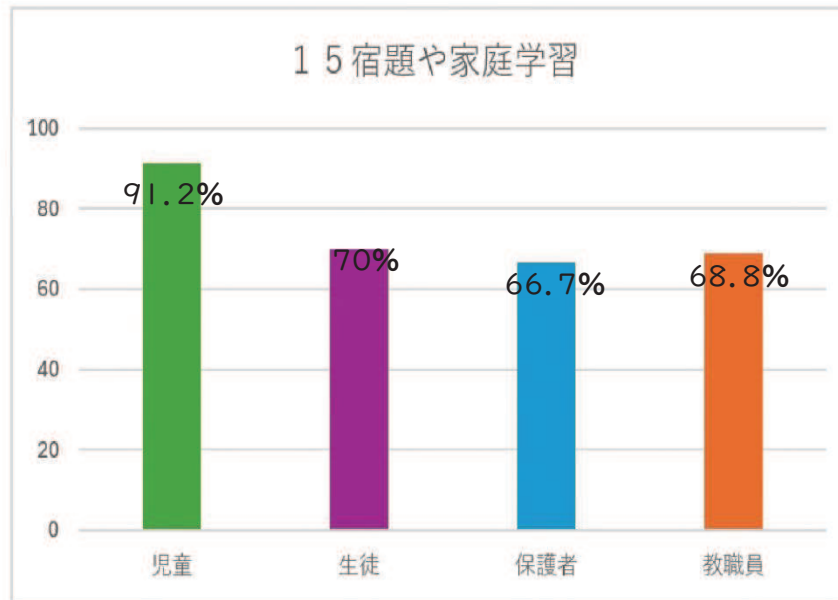
- 「主体的な学び」では、生徒・教職員（100%）と非常に高く、後期課程以上で高い自主性がみられます。児童（88.3%）の評価がやや低く、低・中学年等での主体性を育むアプローチが課題です。
- 「学び合いのある学び」では、児童・生徒ともに100%と非常に高く、授業において「友達と話し合う」「共に学ぶ」場面を実感できていることが大きな成果です。今後は形式的な対話から「高め合う学び」への深化を進めていく必要があります。

2 確かな学力の定着と授業改善



- 「学習リーダーの役割」では、児童評価 64.8%となっており、当事者意識を持って参加できる仕組みづくりや、発達段階に応じた具体的な役割設定・ステップアップの支援が必要です。
- 「タブレットの利活用」では、生徒・教職員（100%）、児童（94.1%）と学校内でのICT活用は極めて円滑です。保護者評価が53.4%と大幅に低く、家庭持ち帰り時のルールや活用目的についての理解啓発が必要です。

2 確かな学力の定着と授業改善



- 「宿題や家庭学習」では、児童（91.2%）は肯定的に取り組んでいます。生徒（70%）、保護者（66.7%）、教職員（68.8%）と全体的に低調であり、家庭学習習慣の定着が課題です。

3 信頼される学校づくりと地域連携

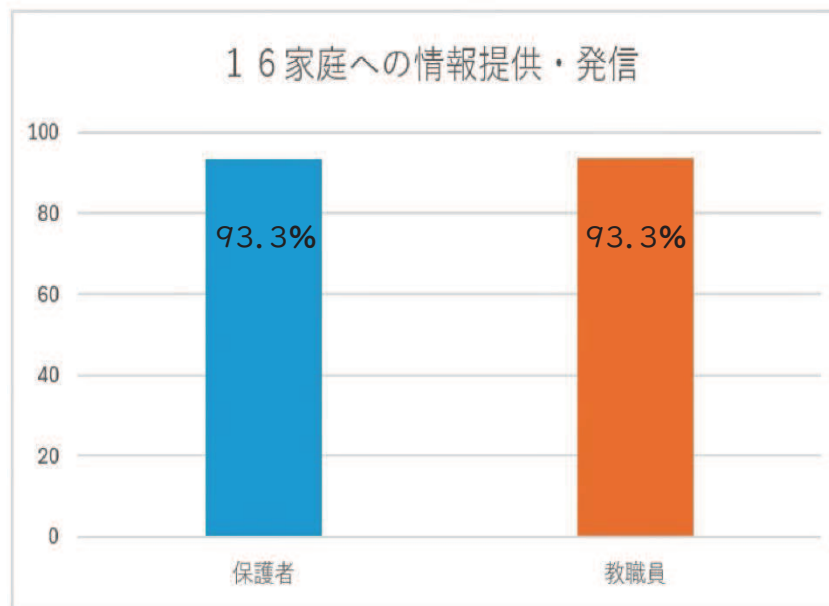
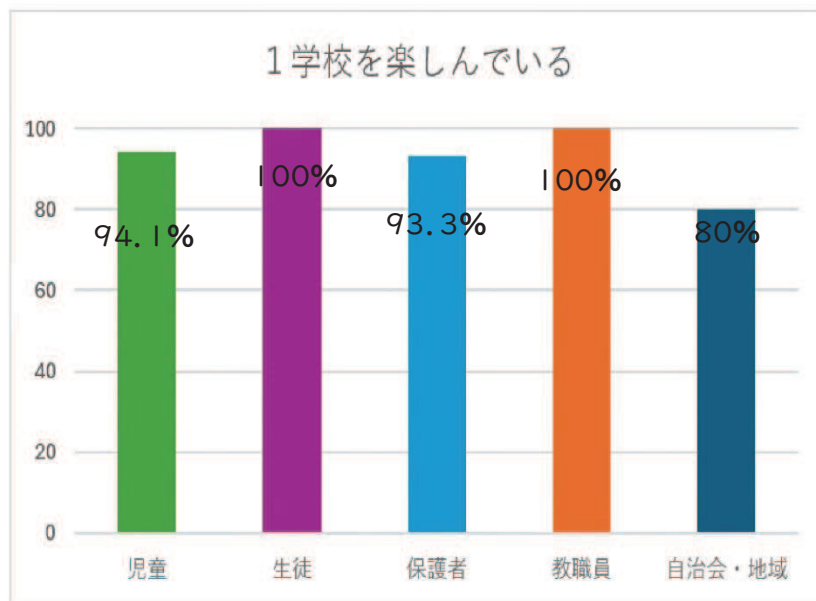
01 学校生活の楽しさ

16 家庭への情報提供・発信

地域とともに歩み、開かれた学校
安心できるつながりの形成



3 信頼される学校づくりと地域連携



- 「学校を楽しんでいる」では、児童（94.1%）、生徒（100%）、保護者（93.3%）、教職員（100%）と全体的に非常に高い評価を得ています。
- 「家庭への情報提供・発信」では、保護者（93.3%）、教職員（93.8%）と良好なコミュニケーションが維持されています。

【自由記述から】

- ・今年からお世話になっております。初めての小学校で私もわからないことだらけなのですが、先生がとても丁寧で優しく安心して通わせることができています。風邪気味で登校が怪しいなあと思う場面でも「学校行きたいー!」と涙目で訴えてくるほど、息子も本当に毎日楽しく通っているようです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。
- ・7年生の授業参観はとても良くて、親の参加型で、楽しかったし、いい勉強にもなりました。子供は毎日楽しく授業しているなと感じました。
- ・少人数ならではの、一人一人よく見てくださっていると思います。
- ・心配事や些細なことを話せる先生方がいるのでとても心強いです。
- ・もっと頑張ってください。



まずは、お忙しい中、学校評価実施へのご協力、大変ありがとうございました。自由記述には、教職員の励みとなるコメントを多くいただき、心温まる思いです。

今回の学校評価結果を、今後の教育活動に生かしていきたいと思います。

今、学校では「学び合いのある学び」を推進しており、子どもたちは学び合いによって共感したり、新たな発見につながったりという実感を得ております。このことは、色々な考えを持つ者同士が顔を合わせて、考えを伝え合い、協働することの大切さを示してくれているのだと思います。保護者や教職員も、きっと顔を合わせて伝えあうことで、考えを理解したり、「そのような考えがあるのか」と新たな発見につながったりするのではないかと考えております。また、お互いへの理解や協力が、子どもたちの健やかな成長には欠かせないものとも考えております。

ぜひ、お気軽に学校に来ていただき、保護者の皆様の考えや思いを伝えていただければ幸いです。

今後とも、教育活動へのご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和8年度 前期学校評価：子どもたちの笑顔と、これから育む「自律」の種

本インフォグラフィックは、令和8年度前期の学校評価（アンケートおよび自由記述）の結果をまとめたものです。
全体として「学校が楽しい」という肯定的な評価が非常に高い一方で、学年に応じた学習習慣の定着や、
教職員の働き方、地域との交流頻度といった「次のステップ」への課題が明確になっています。

育まれている「笑顔」と「学びの基盤」



後期課程の生徒全員が「学校が楽しい」と回答し、
登校意欲が極めて高い状態です。



確かな信頼関係と「参加型」の学び

少人数教育の利点を活かした丁寧な対応と、
タブレットを活用した深い学びが評価されています。

美化された環境と自発的な挨拶

地域住民からも、校内の美化や登校中の
児童による自発的な挨拶が肯定的に受け
止められています。

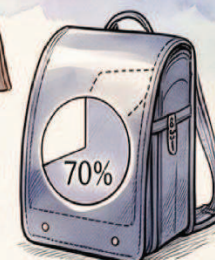
次のステップへ：自律と連携の課題

学年が上がるにつれて 変化する「学習習慣」

前期課程（91%）に比べ、後期課程では
家庭学習の定着（70%）に伸びしろが
あります。



前期課程



後期課程



「学びの主導権」を子どもたちの手に

学習リーダーの育成や、自分たちで活動を決める
「自己決定」の場面のさらなる充実が必要です。



教職員の「余白」と地域への「可視化」

多忙感の解消による教材研究時間の確保と、
地域との交流機会の再創出が求められています。

